シリーズ人権教育　第１２０回

「人権」は難しい？

「人権」という言葉から何を



イメージしますか？

　「人権」と言えば、「難しいもの」「ややこしいもの」と考え、日常生活で「人権」について考えたり、地域や学校等で、「人権」について学ぶ機会があっても、ついつい避けてはいませんか？

　「人権」とは、私たち一人ひとりが人間らしく生きるため、全ての人に共通して備わった権利です。ですから、「難しい」ものではなく、「やさしい」＝みんなに「優しく」、内容も「易しい」ものであるべきなのです。

日本と外国の「人権」の捉え方の違い

　日本では、「人権」は「守る」ものであり、「日本国憲法で保障されているもの」と捉えられています。憲法には、「基本的人権」（１１条）、「居住、移転、職業選択の自由」（２２条１項）、「教育を受ける権利」（２６条）など、国が国民に保障した権利について規定されています。

　一方、外国での捉え方を考えるにあたり、「人権」という言葉を英訳してみると、

**「人権」＝**

**＝人間の**

**＝正しい、権利**

「ジーニアス英和辞典」より

　外国では、「人権」とは、「すべての人間にとって正しいこと」という意味と考えられています。

　また、Rightという単語には、「複数形」を表すｓが付いています。これは、「正し

いこと」は一つではなく、これまで議論や合意を経て、一つ一つの「権利」を「獲得してきたもの」であり、「権利」は「使う」ものと捉えています。

「権利」の対義語は？

　宗教、食べ物、生活習慣、生活リズムなど価値観が異なる人々が共に暮らしている社会では、お互いが相反する自分の「権利」を主張した場合、時としてその権利は衝突することもあります。

　学校のクラブ活動を例に考えると、校庭で部活動したいという「権利」を各部が主張すると、ボールが飛んで来る等の練習に支障が生じ、「衝突」が起こります。そのため、予め各部の代表者が集まって議論を行い、校庭を使う場所や時間帯について「合意形成」によりルールを決め、また、練習後は次の部活動のために、道具を片付けるなどの「責任」を負うことになります。

　日常生活の中で誰もが「人権」を意識し、それに伴う「責任」を認識すれば、自分だけでなく、すべての人の「人権」が尊重されるようになるのではないでしょうか？

【参考】「参加体験型の人権学習の体験と分析」

　（講師）桜井・法貴グローバル教育研究所代表　桜井隆

